

更なる飛躍を —世界に冠たる一流大学を目指して—

大倉利也

社会学類第一期卒業生

<はじめに>

21世紀に入り、第一期生として筑波大学を卒業してから早や4分の1世紀になろうとしている。その間に大学も大きく変化し、発展の一途を辿って来た。現在大学は将来設計の一つに「豊かな教養とグローバル・リテラシー教育を重視する大学」を基本的コンセプトに挙げ、更にもう一つの政府の掲げるIT(情報技術)¹⁾革命の推進によって、大学の教育と研究にも変化の兆が見え、また学際的学問分野の発展や、大学院を中心とした研究型大学²⁾構想など、その内容も急速に変化しようとしている。

そうした状況の下において、今後の筑波大学の目指すべき方向性を卒業生の立場から考察してみた。

<ホームカミング・デー>

開学25周年を記念して、毎年第一期生から順に母校に帰って、現状の大学の様

子や社会の変化状況など様々な面で、先生方や旧友と語り合う企画が、ホームカミング・デーとして催された。1998年10月に第一回目が行われ、私も参加させて頂いた。20数年も経っていると、参加者の中には、彼が一体誰であるのかわからなかったり、白髪も多くなっている人、髪の毛も薄くなっている人など、自然には逆えないものを感じた。また当時の先生方は既に退官されており、ほとんどの先生方が替わってしまっていた。私の知っている先生は、唯一北原学長のみで、当時先生の授業を受けた一人として心強い気持ちであった。大学の印象としては、大学通りの並木道の木々が、25年もの年輪を重ねると随分太く大きくなったなあという感じであった。寝起きた宿舎も当時のまま残っていたが、大変色あせてしまっていた。新しい建物は、周りの木々の緑とよく調和して美しかったが、当時の面影のある建物は、かなり

老朽化しているのが目立った。立食パーティでは青春の真只中であつた学生時代に戻り、なつかしい顔ぶれで再会した喜びを分かち合い、思い出話に花を咲かせていた。卒業してからは、社会の変化も目ざましいものがあつた。高度経済成長期には、経済社会も順風に帆を挙げているが、バブル経済が弾けるや否や、景気が後退して行き、大手証券会社が倒産し、そこに勤めていた「A君は、どうなったのだろうか。」とか、都市銀行が破産した時、そこに就職していた「Y君は、その後、どうしたのだろうか。」とか気づかっていた。また大学内での先生の刺殺事件、海外へ調査に行かれた先生の殺害事件、また学生の不祥事事件など、マスコミが激しく報道して、心配しながら多くの事を語り合つた。

スポーツ面では、野球やサッカーの選手達の活躍が、テレビの画面に大きく写し出され、またオリンピックにも出場し、世界選手権大会にも多くの名声を博し、様々な競技に筑波大生や卒業生が活躍されているのが喜ばしかった。このホームカミング・デーは、現状の様子や将来の事を語り合つたりして、良い再会の機会であつた。

＜ケンブリッジ大学の友＞

数年前のことであるが、私の友人に、英語教師として派遣されて来たケンブリッジ大学卒のM氏がいた。彼は、ギリシア語とラテン語を専攻しており、私が法哲学の基礎として、ギリシア哲学とローマ法の法哲学的研究をしていた時、多くの参考になるアドバイスをしてくれていた。丁度その時突然にも、

「Where did you graduate?」

と聞かれ、咄嗟に、

「University of Tsukuba.」と答えたが、

「University of Tsukuba, I don't know.」

という返事であつた。

その時、私は、筑波大学がまだ世界では名前が知られていないということを痛感し、ショックを隠し切れなかつた。その反面、M氏は、ケンブリッジ大学はオックスフォード大学と並んでイギリスの名門大学であると誇っていた。

＜白川英樹博士ノーベル化学賞受賞＞

20世紀も最後を告げようとしている時、我が国最大の朗報が飛び込んで来たのは、白川英樹名誉教授のノーベル化学賞の受賞であつた。これで筑波大学も、朝永振一郎博士、前学長の江崎玲於奈博士、そして白川英樹博士と3人のノーベル賞受賞者が関与していることになり、

私自身大変誇りに思った。現在、日夜、最先端の科学技術の研究に取り組んでおられる諸先生方や学生達の中から、白川先生に続いて、更に多くのノーベル賞受賞者の方々が輩出されることを期待している。

というもの、筑波大学は、周辺に各種の研究機関が多くあり、産官学の Triangle Research Center の機能が働いて、各々機関の交流促進によって、新しい発明・発見が生まれる環境にあるからである。これに乗じて、国際間の研究交流が前進すれば、益々大学の知名度も上昇するものと確信している。

＜世界の一류大学への道＞

高等教育機関としては、既に古代ギリシア時代から、学園というものが存在し、特に哲学者プラトンのアカデメイアは、全ギリシアの最高学府であり、当時としては世界最高の学園であった。³⁾ 大学の自治という特徴をもって成立した大学は、ポーロニアにおいては法律学校が盛んになり、パリにおいては哲学と神学の研究が盛んになって、マーチャント・ギルドの性格を帯びたユニヴェルシタス (universitas ; ラテン語) が、その団体の呼び名であった。⁴⁾ (university という名の語源) その後、ヨーロッパ諸国に伝播し

て行き、現在世界に存在する各大学になったわけである。そこで、現在世界の中で一流と呼ばれている大学を調べ、少し列挙してみた、⁵⁾ (alphabetical order.)

- (1) Australian National University. (1946)
- (2) Bologna, Università degli Studi di, — one of the oldest (late 11th century) and most famous universities in Europe.
- (3) California, University of, (1868) Berkeley.
- (4) Cambridge, University of, —coeducational autonomous institution of higher learning at Cambridge Eng. Its history began in 1209.
- (5) Chicago, University of, —privately supported, at Chicago, founded in 1891 by John D. Rockefeller.
- (6) Harvard University —oldest (1636) and one of the foremost U.S. educational institutions.
- (7) Humboldt-Universität zu Berlin, (1809)
- (8) Laval, Université, (1852) in Quebec.
- (9) Leiden Rijksuniversiteit te, —Leiden, Neth., founded in 1575 by William of Orange.
- (10) Massachusetts Institute of Technology (MIT)—privately controlled, higher education known worldwide for its scientific training and research, char-

- tered in 1865.
- (11) Moscow State University — coeducational state-controlled institution of higher learning at Moscow, founded in 1755.
 - (12) Oxford University of, — privately controlled, dating from the mid-12th century. Modelled on the University of Paris.
 - (13) Paris I à XIII, Universités de, — founded c.1170. It grew out of the cathedral schools of Notre-Dame.
 - (14) Peking University, (1898) in Peking.
 - (15) Princeton University, (1746) at Princeton.
 - (16) Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität Bonne, (1777).
 - (17) Ruprecht-Karl-Universität Heidelberg, (1386) Modelled on the University of Paris.
 - (18) Stanford, University of, — privately controlled, at Stanford, founded in 1885 by railroad magnate Leland Stanford.
 - (19) Uppsala Universitet, (1477) at Uppsala.
 - (20) Yale University, (1701) at New Heaven.

上述以外にも、まだ多くの世界の一流大学があるが、筑波大学は開設当時から、国際A級の大学を目指すと言明され

ており、上述したような世界的一流大学との間で、教授陣、学生達の交流があれば、自らその道は少しずつ開けて来るように思われる。日本最古の大学である比叡山延暦寺を最澄が創設したときの趣意書には、「学生とは何ぞや、是、国の宝なり」という言葉があるが、⁶⁾ 今や筑波大学においては、「教授、学生とは、是、世界の宝なり」という言葉があてはまるのである。日本国のみならず、全世界の国々の平和、学術研究の向上の為に精魂を注ぎ込めば、その目標は必ず達成されるであろう。

<おわりに>

現在では、筑波大学は、世界的にはまだ知名度が低いですが、これから更に飛躍する大学である。関係者皆様方の一層の御努力によって、来るべく創立50周年には、筑波大学が世界の一流大学の仲間入りを果たし、更に大学を核にして、筑波山麓一帯に広がる広大な国際研究学園文化都市が実現されることを祈る次第である。

(おおくらとしや 法哲学専攻)

注)

- 1) 『筑波フォーラム』58 P.25
- 2) 『茗溪』平成13年度2001夏1030号

- P.8
- 3) 『アリストテレス』 今道友信 講談社 P.121
- 4) 『学校論・大学論』 勝田守一 著作集5 P.308

- 5) 『Encyclopædia Britannica』 Micropædia Ready Reference and Index.
- 6) 『国際化時代と大学』 福田信之 善本社 P.41

